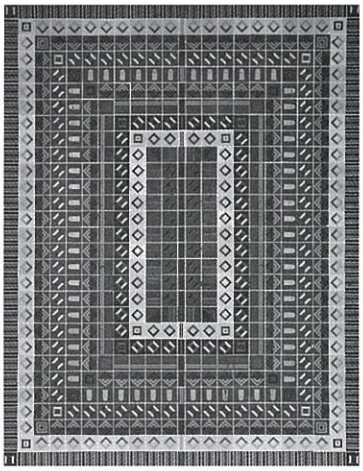
池田太一展 Ikeda Taichi 挑戦の軌跡―



「曼荼羅　1」1965

滑川市に拠点を据えて活躍されている芸術家をとり上げ、その人と作品を紹介する現代作家シリーズの第７回展として、「挑戦の軌跡―池田太一展」を開催します。池田さんは1933年に滑川市上梅沢に生まれられ、高校時代からその才能を発揮されました。卒業後は金沢美術短期大学美術科（現金沢美術工芸大学）に進まれましたが、旧態依然とした官展系の画風に馴染めず試行錯誤されます。しかし、1954年の自由美術協会展で小野忠弘の作品に出会い強烈な衝撃を受けます。この小野作品との出会いが、この後の池田さんの画家としての生き方を決定づけ、敗戦後アメリカや西欧からもたらされた新しい美術の世界に身を投じます。1964年、池田さんの作品『記号２』が「芸術新潮」によって1963年度のベストテンに選出され、この後も常に現代美術の最先端を走り続け、いち早く蛍光灯を用いた作品や、作品の中に時間を導入する試みや、インスタレーションなど様々な実験的な作品を発表されます。

この後、池田さんは1991年頃まで制作を中止されますが、北日本新聞社退職を機に再び制作を開始されます。しかし、以前のような硬質な幾何学的抽象作品から一転して、デリケートな掠れや震えるような線によって、命の鼓動と深々とした瞑想感の漂うものに変化します。そして、1997年からは人間をテーマとして〈人々の風景シリーズ〉や〈愛おしき人々シリーズ〉など現代社会を直視した大作を次々に発表され、2007年にはニューヨークの世界貿易センタービルの跡地を題材とした『埋没』によって、横浜日仏芸術祭2007で日仏都市芸術特別賞を受賞されました。池田さんは今年76歳になられましたが、今後もさらに変遷を重ねられ未知の領域に挑戦されんことを期待したいものです。

「自画像」1951頃

番号	作品名	制作年
高校～大学		
1	自画像	1951頃
2	かぼちゃのある静物	1951頃
3	静物デッサン	1953～1955
4	裸婦３人デッサン	1955
5	腰掛ける裸婦デッサン	1955
6	車中デッサン	1952～1955
7	静物	1954
8	田畑習作	1955頃
9	横たわる裸婦	1955
自由美術協会時代		
10	群	1959
11	記号　2	1963
12	曼荼羅　1	1965
13	曼荼羅　2	1965
自由美術協会退会以降		
14	〈人型シリーズ〉F80	1967
15	〈アクリル板による人型シリーズ〉F80+2	1967
16	PR/PUBLICATION（両面作品）	1968
17	平面上のあなた（再制作）	1969（2009）
60歳から		
18	45の筆線	1991～1993
19	25の白い記憶	1991～1993
20	純白を遥かに眺める位置にて	1993
21	変形する時を知るのは表面だけだ	1993
22	自然が描いた作品	1993～1994
23	自然が描いた作品	1993～1994
24	自然が描いた作品	1993～1994
25	自然が描いた作品	1993～1994
26	自然が描いた作品	1993～1994
27	自然が描いた作品	1993～1994
28	白の存在	1994
29	ラインから	1994
30	リズミカル	1994
31	青の記録	1994頃
32	北からのブルー	1995
33	音の影	1995
34	母と孫、祖母と曾孫	1997
35	朝の窓辺	1997
大作のいま		
36	白田さん	2006
37	奥田さん	2006
38	メトロポリタン美術館前の人々	2000
39	横浜美術館前	2002
40	2001年９月の新聞より	2003
41	除かれた瓦礫、遠のく記憶	2003
42	夏の銀座交差点から	2004
43	建てられた残骸の十字架	2004
44	セントラルパークにて	2006
45	発電所美術館に集まった友人達	2008
46	語りかける小野忠弘氏	2008
47	ゴッホ氏最後の自画像	2008
48	振り向くセザンヌ氏	2008
49	ドクターホゼ氏	2009
50	恩師野上秀三先生	2009
51	煙草を吸う瀧口修造氏	2009
52	夭折の友飛田弘さん	2009

「セントラルパークにて」2006